

1月14日（火）

おはようございます。

今日は「どやどや行事」のことをお話します。

どやどや行事は、諸説さまざまありますがけれども、四天王寺の執事長で、実務の実施責任者であります、瀧藤尊淳先生に伺いますと、四天王寺の記録で残っている第一回目のどやどや行事は、826年から828年のいずれかだということです。

828年といいますと、まだ平安時代です。弘法大師が高野山の奥の院に入定されましたのが、835年でありますから、お大師さんがまだ存命中のことになります。

お大師さんと四天王寺の関係は、唐にお大師さんが渡る前の二年間、四天王寺で役僧をされておりました。そして、留学から帰国されて、都入りが許されて、実際に都に入られますが、その際に四天王寺へ戻ってこられて、唐で学んできた、最新の宗法を、四天王寺のお坊様方に示したということが言い伝えられ今も残っています。

そうしますと、このどやどや行事は、時には途切れたこともあったでしょうが、お大師さんとも御縁があり、1200年もの長きにわたる誇り高い歴史的行事だということになります。そして、今日は

「修正会結願けちがんの日」であります。

何が結願かと言いますと、元旦からの前半の七日間は神道を中心に、後半の七日間は仏教を中心に、鎮護国家と五穀豊穰を、分かりやすく言いますと、世界平和と経済繁栄ですね、それを神社とお寺で一生懸命捧ぐのです。お寺では、京都の真言宗東寺で後七日御宗法みしほといひまして、全国から選ばれたお坊様たちが祈祷されるのです。ですから東寺も今日が結願の日です。つまり、全国から選ばれたお坊様方じょうがくい（定額位）が七日間泊まられまして、鎮護国家と五穀豊穰を祈られたその祈りの結ばれる日ということです。かつて校祖平岡岩峯先生もそのお坊様たちが捧まれる中に入れていただいたことがあったそうです。清風中学から入学している生徒諸君は知っていると思いますが、善通寺の管長であられる、菅智潤すがちじゅん猊下などの方々が東寺へ籠られた結願の日なのです。

鎮護国家と五穀豊穰、いわゆる世界平和と経済繁栄を祈る神道と仏教の祈りが集中する最後の日、つまり結願の日が今日であります。

す。たとえば言うならば、太陽光線を虫眼鏡で集中すれば、火が出てくるように、祈りが集中する日が今日であります。

この神道と仏教の祈りが結晶する良き日に、人が生まれてきた姿に近く、美しく清らかなこころの本質の姿を象徴する禪一つになって、いわば聖者として、諸君は日本三大裸祭りと呼ばれ、どやどや行事に参加させていただくわけであります。

今年の参加で清風は50回目の節目を迎えますので、大変意味深い日だと思います。その意味でも、参加する生徒諸君は真剣に取り組んでもらいたいと思います。そうでなければ怪我をします。しっかり祈ればその祈りも通じるのではないかと思います。

もしかしたら雨になるかもしれませんが、日本中の祈りが結晶する日に、1200年続く日本の伝統のなかで、清風50回目のどやどや行事を成功させるという気概でしっかり参加してもらいたいと思います。

今日の話はこれで終わります。

学校長